

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

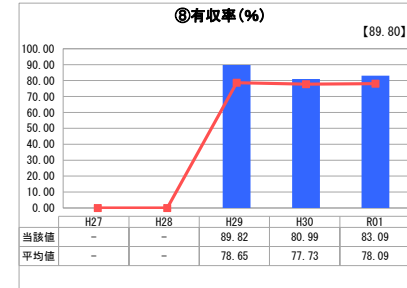
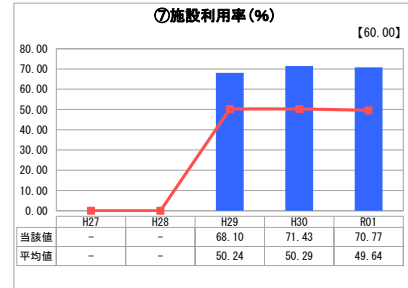
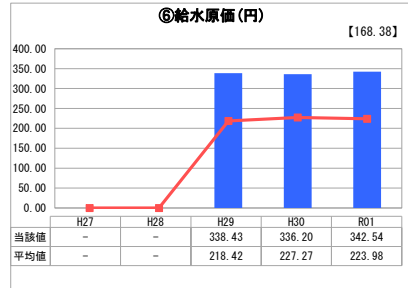
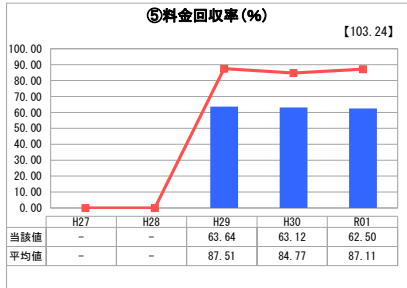
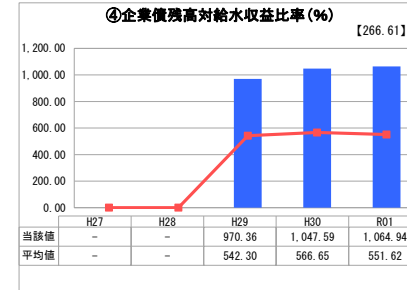
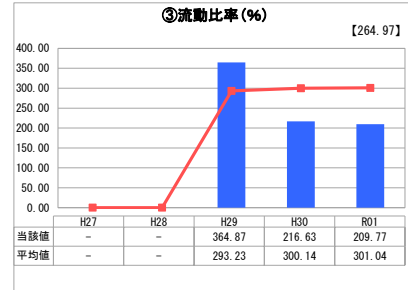
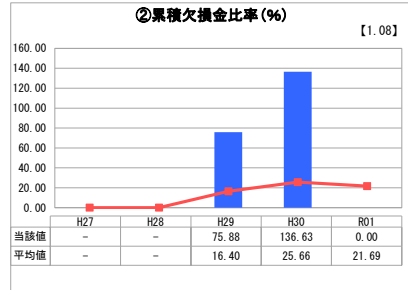
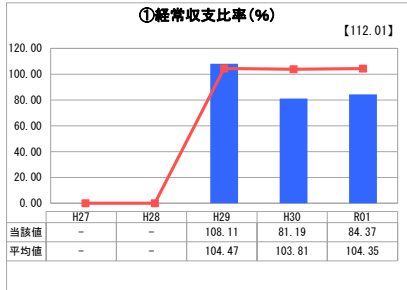
北海道 安平町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	54.12	87.77	4,590	

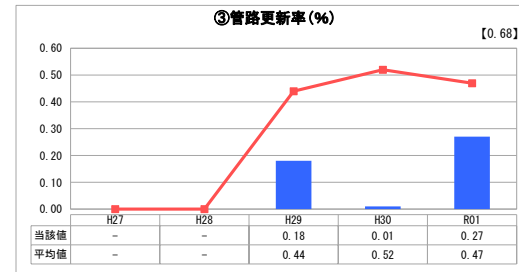
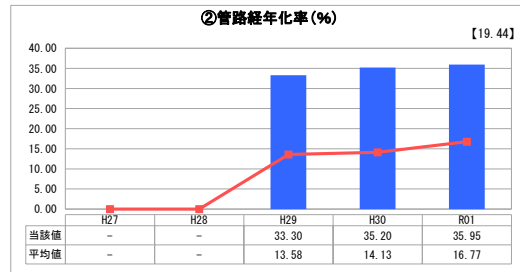
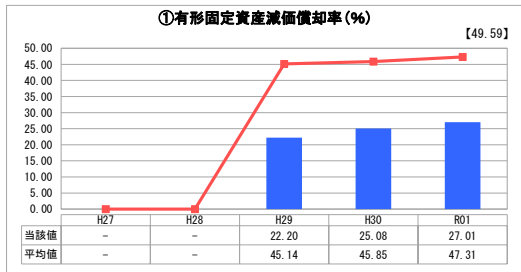
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,761	237.16	32.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,753	89.33	75.60

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を下回っており、料金収入や一般会計からの繰入れ等の収益で維持管理費等が賅っていない状況にあります。北海道胆振東部地震以降、給水人口は減少傾向にあり、今後も経常収支比率および料金回収率が低い状態が続くことが見込まれています。

安平町においては市街地が分散していることもあり給水原価が類似団体に比べ割高になっております。これを料金収入のみで賄うことは困難であり、一般会計からの繰入れは必須となります。総務省が規定する基準内の繰入れのほか基準外の繰入れも実施して経営の安定に努めます。

安平町水道ビジョンにおいて施設の統廃合および維持管理費の抑制が計画されておりましたが、北海道胆振東部地震による災害復旧事業などの修繕費が今後も見込まれるため、計画どおりの経費節減が困難な状況にあります。管路や施設の耐震化を進めながら効率的な施設運営をしていくことで各指標の改善に努めていきます。

### 2. 老朽化の状況について

管路の経年比率は年々上昇しており高い水準にあります。北海道胆振東部地震では複数箇所が漏水となり断水した経緯もあります。現在においても震災が起因となる漏水が発生しており、都度修繕を実施しているところであります。

修繕や更新が必要な管路は年々増加しておりますが優先順位を検討しながら更新を行っていくこととなります。

## 全体総括

安平町水道事業は、地理的条件から給水原価が割高となり、管路の老朽化も著しい状況にあります。この状況に震災による災害復旧が加わり多くの課題がある中ではありますが、将来的な水需要とそれに見合った供給能力のバランスを考慮することが求められており、適正な施設配置による費用抑制と資産管理を推進し効率的な経営を目指します。